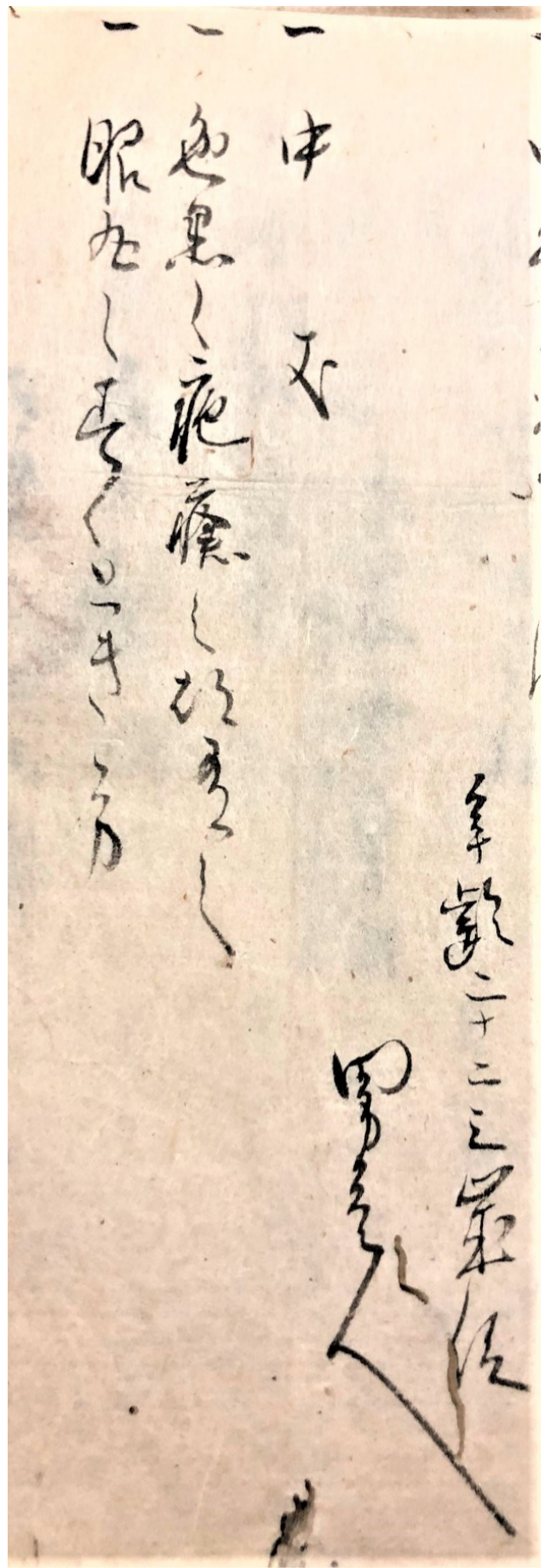


※解答は受付にてお渡ししております。

・くずし字をみて、マス目をうめてみましょう。マスの下か右側にヒントが書かれています。



		年齢				性別		歳位	
一	背丈					男			
一	特徴1								
一	特徴2								
一	特徴3								
一	す								
一	と								
一	き								
一	方								
一	之								
一	跡								
一	有								
一	之								

●人相書（にんそうがき）

現在の指名手配書のことをさします。盗みや殺人などの犯罪者を捜索・逮捕するために、その人物の特徴を記して配布されました。手配書には、現在のように写真や絵などは付されておらず、文字だけ特徴が書かれます。そのため、顔、身なり等の外見の特徴以外に、方言や仲間内からの呼ばれ方など情報も記載されました。この人相書は、廻状として回覧され、廻り田村で名主によって御用留に記録されたものです。

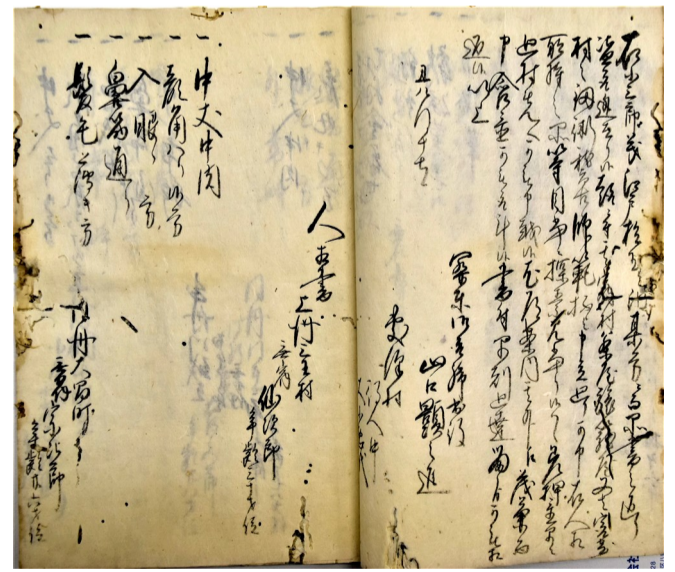
●読解のヒント

- 特徴1・2 顔（肌）の特徴。「跡」という言葉が続いているので、そこをヒントにしてみましょう。
- 特徴3 顔のパーツに関する特徴。「すすとき」とは「鋭い」という意味です。

●村を襲う凶悪事件

この人相書は、「嘉永三年御用留」（小町家文書）に記されています。嘉永四年三月に関東取締役吉田億平から四人組の強盗について人相書が廻されます。この四人組は、同年三月二十九日の昼間、武州多摩郡貝取村（現多摩市）に押し入って金品を強奪しました。脇差や衣類など金目のものを奪い取り、風呂敷に入れて逃亡したとされています。この四名について、人相書を記し回覧して行方を追うとともに、昼間は脇差などをつけずに百姓風に変装しているため、道案内や茶屋、旅籠など立ち回り先には注視するようにと呼び掛けました。

テキストに使用した箇所は四人のうち一人の男性の特徴（年齢、性別、背丈、顔）が記載されています。



「嘉永三年御用留」より人相書の記録（小町家文書）

このほかに、四十七歳、三十歳、二十七、八歳の三人の男が仲間であると考えられており、中でも最年長の男は「親方」と呼ばれていることなども書かれています。

●参考文献

- 『東村山市史1 通史編』（東村山市）
- 『東村山市史7 資料編 近世1』（東村山市）